

環境教育など幅広く活用します

電気自動車 i-MiEV (アイミーブ) 貸与式

電機機器メーカーの株式会社明電舎より三菱自動車工業製の電気自動車 i-MiEV (アイミーブ) が多久市に無償貸与され、4月10日に貸与式を行いました。

貸与式には同社の浜崎祐司副社長をはじめ、電気学会会長として、多久市への貸与に貢献していただいた明治大学教授の松瀬貞規教授など関係者が出席。横尾市長が「志田林三郎先生のご縁によるご厚情を大切に受け止め、地域社会での新しいエネルギーの啓発など大事に活用させていただきます」と挨拶しました。

株式会社明電舎の浜崎祐司副社長は、「電気工学の礎を築いた志田林三郎博士生誕の地で電気自動車を使っていただく機会をいただけて感謝しています。環境教育など幅広く使ってください」と電気自動車の普及・啓発への思いを語られました。

▶ 浜崎副社長からカギのレプリカの贈呈を受ける横尾市長



新たな学校生活がスタート！

市内小中学校で入学式

市内の中学校で4月11日、小学校で12日に入学式が行われ、212人の中学生と153人の小学生が新たに学校生活をスタートさせました。

西部小では新入生6人が、上級生が作った花のアーチで迎えられました。太田春美校長は、西部小で日々大切なこととして「毎日元気いっぱい登校しましょう」、「何にでも一生懸命に頑張りましょう」、「ありがとうございますという気持ちをいつも持ちましょう」の言葉を贈りました。

新入生は一人ひとり太田校長から教科書を渡されると、緊張しながら受け取り、これからの学校生活に目を輝かせていました。



▲担任の先生から一人ひとり名前を呼ばれ、元気な返事をする西部小1年生

力を合わせて モザイクアートを作りました！

小学校の放課後に行われているなかよしクラブと、各町公民館の子ども教室の児童約350人が、合同でモザイクアートを作成しました。2月から1か月かけて、B4サイズの紙約500枚に6色の小さな紙を張り、つなげた、縦約5m、横約7mの大作です。お披露目当日は児童が司会を務め、参加した全員のカウントダウンで公開。初めて「多久聖廟」の絵になって完成した姿を見た児童らは、感動の声をあげていました。この大作は、中央公民館に展示しています。



3/26

災害時の応急措置に 関する協定を締結！

多久市と多久市管工事組合（諸富公昭会長）は、災害時に水道施設など優先して対応するため『応急措置の協力に関する協定』を結びました。市内の7つの業者で構成する管工事組合との連絡体制の強化を図り、地震や水害等に対応します。横尾市長は「災害時のライフライン確保は大切。万が一の際は、お力添えをいただきたい」と話し、諸富会長は「安全・安心を守っているという自負をもって仕事しています。今後とも協力をしていきます」と応えました。



3/26